

令和6年9月定例市議会

行政報告要旨

総 社 市

本日、９月定例市議会を招集いたしましたところ、議員各位におかれましては、万障お繰り合わせの上ご出席くださいます。誠にありがとうございます。また、日頃から市議会の皆様には、議会運営に格別のご配慮を賜り、重ねてお礼申し上げます。

１）台風１０号への対応と南海トラフ地震への備え

はじめに、災害への対応につきましてご報告いたします。史上最大級といわれた台風１０号が、８月３１日に総社市へ最接近しましたが、幸いにも本市では、大きな被害は報告されておられません。

また、８月８日１６時４３分には宮崎県日向灘を震源とするマグニチュード７．１の地震が発生し、南海トラフ地震臨時情報・巨大地震注意が発令されました。総社市は、南海トラフ地震対策推進地域に指定されており、同日、直ちに災害警戒本部を設置しました。その後、自主防災組織、民生委員、地域づくり協議会を緊急招集し、大地震への備えについて市

民への周知を徹底しました。

幸いにも今回の注意期間では、南海トラフ地震の発生はありませんでしたが、近い将来起こりうる地震であることは間違いないと考えております。本市は大きな地震の経験がなく、本議会でも度々地震対応についてご質問をいただきました。この度、地震対応の総社モデルを構築すべく、能登半島地震の対応を参考にして、自主防災組織や協定先の民間企業等の協力団体への連絡ルートを始めとする情報伝達の方法や、揺れた直近の緊急避難場所など、様々な想定をリアルに作ってまいります。水害の防災計画についても、これまでの災害の経験に照らし合わせると、机上の空論と危惧される部分もあるので、より一層現実性に即したものを整備し、どんな災害からも市民の命を守るという覚悟で取り組んでまいります。

2) 財政状況と人口増パッケージの進捗

①財政状況

次に、令和5年度の決算につきましてご報告いたします。市民の住みやすさの指標として、財政と人口は数値として現

れる代表的なものと考えております。まず、一般会計における令和５年度実質収支額は約３億７千万円の黒字となりました。物価高騰や人件費上昇などの影響はありましたが、個人市民税、固定資産税などの市税が、過去最高額となり、黒字を支える大きな力となりました。税収の増加は、総社市民全員のお力によるものであり、改めまして心から感謝いたします。

また、これまでハード整備などの大型事業や災害復興といういくつかの壁を乗り越えてきたものの、財政調整基金の残高は過去最高額の７５億６千万円となりました。今後も、将来にわたり市民が安心して暮らせる、健全な財政運営に取り組んでまいります。

②人口増パッケージの進捗

続いて、人口につきましては、増加傾向が弱まってはいるものの、人口増パッケージの取組と市民の皆様の御協力により、減少への転換を食い止めている状況であります。４月から総社市で生まれた新生児をお祝いする、そうじゃ出産おめ

でとうギフトを贈呈していますが、8月末現在で142名にお届けしました。ギフト以外にもさまざまな事業を通して、総社市の宝である子どもたちを全力で支えてまいります。

また、本年度1億円の予算で進めている、道づくり予算の進捗ですが、現在、1か所の道路改良、市道7か所と農道1か所の計8か所の舗装、3か所の安全施設、2か所の伐木などについて、実施に向けた準備を進めています。引き続き暮らしやすいまちとなるよう、地元との連携を密にして取り組んでまいります。

空き家対策としては、「地域ぐるみ」を掲げて新たに4つの施策をスタートさせました。地域の皆様方から多くの御協力を得て、空き家を売却等する所有者に対して最大30万円を支給する、空き家利活用所有者応援金が7件、空き家付宅地再生バンクへの申請が7件、空き家の解体撤去に係る固定資産税等の減免制度が4件申請されるなど、順調にスタートしています。今後も、地域の皆様のお力をお借りしながら空き家対策を推進し、地域の活力・人口増につなげてまいります。

3) 変わる市役所 ～日本一やさしい市役所を目指して～

さて、令和5年1月に着工してから1年半が経過し、総社市の新たなシンボルとなる新庁舎の姿が徐々に現実の形となってまいりました。新庁舎の建設現場の見学はできる限り対応し、市民の皆様にも身近に感じていただけるように努めてまいります。なお、実際に市民の皆様に使っていただく開庁日を、令和7年4月21日に予定しております。

新しい市役所は、防災センターや防災機能で市民の安全安心を支え、加えて、多目的ホールやカフェスペースなどの交流や憩いの場を設け、市民に愛される庁舎になると期待しています。中でも、一番大きな変化としては、市民の利便性を大きく向上させる「そうじゃ流ワンストップ窓口」を設置することです。「書かない」「待たない」「回らない」をキーワードとし、専門的な事例になった場合でも、できるだけ市民の皆様が別の窓口に移動せず用件を済ませることができるよう、デジタル技術・AIを活用して、効率的かつ誰もが利用しやすい、ひとり一人に寄り添った日本一やさしい窓口を実現します。

4) 市民生活利便性の向上 ～総社市版ライドシェア開始～

また、市民に寄り添う取組として、8月7日に総社市版ライドシェアを開始しました。これは、ボランティアを基調として、地域が主体となって高齢者の買い物等の移動手段を確保している団体に対し、自動車保険や大臣認定講習、ドライブレコーダーなどの経費を市でサポートする取組です。日常の買い物などで困っている方を、そうじゃ流ライドシェアによって救っていきたいと考えております。

三須桃山団地を皮切りに、富原、福谷など他の地域への拡大も今後予定しております。将来的には、すべての地域にボランティア団体が誕生するよう拡大を後押ししてまいります。

また、現在中学校の部活動の地域移行の一貫として、昭和五つ星学園義務教育学校と総社中学校の合同部活動を実施し、議会のご理解をいただき、土日にバスで送迎しております。今後、やりたい部活動が自分の学校にない子どもの希望を叶えるために、他校の部活動に参加できる拠点校方式を検討しています。その際の子どもの送迎にこのライドシェアを

始めとする新たな交通手段を導入できないか検討してまいります。

5) イベント等のお知らせ

①赤米フェスタ

次に、今後予定しておりますイベントにつきましてご報告いたします。9月15日に赤米フェスタを開催いたします。赤米フェスタは、地域に根付き栽培されている赤米を広く知ってもらうことを目的に、平成28年からスタートし、9回目の開催となります。今回も、総社赤米大使の相川七瀬さんを中心に、天童よしみさん、^{ひととよう}一青窈さん、^{めいじえい}May Jさんという4人のビッグアーティストをゲストとしたスペシャルなコンサートを開催します。このようなクオリティで赤米フェスタを続けることができたのは、市民をはじめとする、赤米の大切さに共感していただき、ご来場くださったお客様や、周辺住民のご理解があつてのことであり、心から感謝いたします。この総社の地で一流の音楽に触れる機会を提供できることをうれしく感じますし、ご来場の皆様に大いに楽しんで

いただけるコンサートになるよう進めてまいります。

②そうじゃ吉備路マラソン

そうじゃ吉備路マラソン2025を来年2月23日に開催いたします。8月1日から、大会の運営をサポートしていただくボランティアの募集を開始いたしました。ランナーの募集は例年より1か月早め、10月1日からの予定となっております。今回から、ナンバーカードを事前送付することで、受付が不要となるランナーにやさしい大会としてまいります。

最大2万人を超える規模で開催してきたこのそうじゃ吉備路マラソンも、他地域のマラソン大会の増加などの影響もあり、人数がピーク時から減少するなど岐路に立たされています。今一度、そうじゃ吉備路マラソンの意義を見つめ直しながら、新たな気持ちでこのマラソン大会をみんなで創り上げる覚悟です。ボランティア、ランナー共に多くの方にご参加いただいて、みんなが楽しめる大会になることを切に期待しておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

③史跡作山古墳調査活用事業

今年度からスタートした、史跡作山古墳調査活用事業についてですが、これから9年間かけて調査や保存活用計画の策定等を実施していきます。発掘調査は、令和7年度から令和12年度までの予定で、この調査によって、作山古墳が造られた詳細な年代や当時の土木工事技術の一端が明らかになることと思います。そして、このような成果が得られれば、畿内^{だいおうぼ}の大王墓と呼ばれる前方後円墳との詳細な比較が初めて可能となり、総社市のルーツである古代吉備の国の勢力や他地域との関係、さらには葬られている人の政治的な地位や社会的な階層が明らかになるかもしれません。このように市民の皆様が郷土に誇りを持てるような夢や希望と言ったワクワク感がこの事業には詰まっています。そのため、市民をはじめとして、全国に向けて、作山古墳の魅力を適宜発信することが重要と考えています。

6) 6月議会での検討について

ここで、6月議会での検討事項について、その結果をご報

告いたします。

頓宮議員から、産後ケア事業の対象を母子という設定から、母親だけでも含めることはできないかとのご提案がありました。これについては、ご提案のとおり産後ケア事業の対象を拡大し、母親のみの利用も可能といたしました。

また、仁熊議員から、加齢性難聴者に対する補助金の創設はどうなっているのかとのご質問がありました。これについては、補助制度を創設すべく、9月補正予算を計上させていただいております。

ご報告させていただきましたとおり、市役所の窓口手続きから、地震に対する対応まで、徹底的に市民に寄り添った行政サービスができる、まさに日本一やさしい市役所を目指して全力を尽くしてまいります。

議員の皆様をはじめ、市民の皆様におかれましても、これまでと変わらぬご理解と、ご協力をお願い申し上げ、私からの行政報告とさせていただきます。